

【日本再生への道(37)】

## 未来を発見するオリンピック

持続可能なインフラ構築に向けた取り組みを

三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング 日本 2020 戦略室

奥野 麻衣子・中田 雄介

### <概要>

大規模なイベントを開催する効果としてはこれまで、経済効果・経済波及効果が想起されることが多かった。しかし、近年、大会後の施設転用などの有形・無形の遺産(レガシー)を計画的・戦略的に創出することで、持続可能な社会を実現していくことが重視されている。また、2012年に開催されたロンドンオリンピック・パラリンピック大会では、開催準備・運営・終了後の各フェーズで、経済・社会・環境への影響が持続可能なものであるよう様々な取り組みが行われた。20年に東京で開催するオリンピック・パラリンピック大会(以下、20年東京大会)もロンドンに倣い、社会や都市の持続可能性について早期に検討を進め、計画的・戦略的に取り組むことが肝要である。

※時事通信社発行『金融財政ビジネス』(第10452号、2014.11.13)より許可を得て概要のみ転載しております

>> [本件に関するお問い合わせはこちらの「お問い合わせフォーム」へ](#)